



1

丸一国府商店

廃藩置県後の旧犬山藩の家臣が、明治5(1872)年に名古屋市の犬山藩邸で創業した商店。陶器販売拡大のため、明治20(1887)年に瀬戸市朝日町に仕入部を開設し、その後の瀬戸自動鉄道が開業したのを契機に、明治44(1911)年に現在の望楼を載せた建物が完成しました。望楼は、犬山城の天守閣を模したとも伝えられ、接待の場として使用されました。当時、木造2階建ての建築が建ち並ぶ瀬戸川沿いの中でもひと際目立つ存在で、現在も昔の姿を残して陶磁器販売を行っており、往時の様子を伝える景観の核となっています。

2

古民家 久米邸

近代の瀬戸窯業を代表する窯屋であった2代川本柄吉家の別邸。資料などから、現存している主屋と土蔵は明治41(1908)年の建造だと考えられます。明治後期から戦後までの建築様式を残す貴重な建物で、平成16(2004)年からは「古民家 久米邸」としてカフェや雑貨店として活用されています。

カフェ営業時間 午前11時～午後5時(夏季は午後6時)
定休日 毎週火・水曜日



3

無風庵

近代美術工芸家である藤井達吉が工芸運動を進め、若手作家育成のために私財を投じて西加茂郡小原村(現在の豊田市北大野町)に建築した茅葺入母屋造の建物です。昭和27(1952)年には藤井達吉が開いた工芸村が解散となりますが、共同生活をしていた瀬戸の陶芸家の尽力によって、達吉の雅号である「無風」に由来した「無風庵」という名称で瀬戸市へ寄贈・移築されました。平成13(2001)年に復元・改修され、現在はギャラリー兼休憩所となっています。



開館時間 午前10時～午後3時
休館日 毎週水曜日 入館料 無料

4

旧山繁商店(国登録文化財)

創業は明治19～20(1886～1887)年頃といわれ、その後大正、昭和を通じて問屋業を営みました。現在、その広い敷地内には、明治22(1889)年に建てられ、内外の要人の接待の舞台となった「離れ」や、「土蔵」・「旧事務所」・「新小屋」のほか、倉庫群など各時代の建物が9棟残されています。離れや築地塀の石垣など大変贅沢な造りとなっています。(敷地内はイベント時のみ公開)



5

深川神社

奈良時代に創建されたといわれています。入口正面の拝殿には瀬戸で作られた緑釉瓦が葺かれ、美しい風景を演出しています。本殿は諏訪の立川流の名匠立川和四郎富昌による造営です。境内には瀬戸陶業の祖と伝えられる加藤四郎左衛門景正(藤四郎)を祀る近代和風の意匠を凝らした陶彦社や、市の指定文化財である永享年銘梵鐘や織部燈籠などがあります。また、藤四郎作と伝えられる国の重要文化財の「陶製狛犬」も展示されています(拝観有料)。



6

瀬戸永泉教会礼拝堂(国登録文化財)

明治33(1900)年に、キリスト教プロテスタント長老派の中心的建物として建設されました。明治期の木造平屋建ての教会建築が改築・移築されずに現存する例は愛知県内でも数例で、和洋折衷のトラス構造やスタンドガラスなどが大変貴重です。



7

新世紀工芸館

展示棟・交流棟・工房棟からなり、作品展示や研修生の制作風景を見学できるほか、作家の器で飲み物を楽しめるコミュニティルームや作品を購入できるギャラリーがあります。展示棟は大正3(1914)年に建てられ、後に現在の場所に移築された「旧瀬戸陶磁器陳列館」を再現したものです。

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、年6回程度館内清掃・点検のため正午まで休館
入館料 無料



8

瀬戸蔵ミュージアム

ミュージアムの2階は、20世紀の瀬戸の建物を復元したゾーンとなっています。動力化によってモーターが導入された工場や石炭窯のほか、せともの輸送に欠かせなかった名鉄瀬戸線の「せとでん」や、大正時代から平成13(2001)年まで使われた尾張瀬戸駅旧駅舎も再現されています。

開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休館日 月1回程度臨時休館、年末年始
入館料 一般500円、高校・大学生・65才以上の方300円中学生以下・障害者手帳をお持ちの方・妊婦の方は無料※20名以上は団体割引あり

